

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center



平成30年12月8日に、第4回京都中部総合医療センター健康フォーラムを、「ガレリアかめおか」にて開催しました。職員からは、3題の発表と18の展示を用意しました。また、近畿大学名誉学長の塩崎 均先生に「医者が癌になったら」と題した特別講演をおこなっていただきました。今回も多数の地域住民の方々にご来場いただき感謝しております。フォーラムで過ごされた時間が皆様の健康に役立つものであったなら幸いです。

実行委員会副委員長・眼科部長 伴 由利子

地域医療支援病院 臨床研修指定病院
救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療病院 第二種感染症指定医療機関
地域周産期母子医療センター ヘき地医療拠点病院
京都府地域リハビリテーション支援センター
京都府災害拠点病院 (地域災害医療センター)
DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター
エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
TEL 0771-42-2510代 FAX 0771-42-2096
<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人情報の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

2019.1

Vol.41

新春号

CONTENTS

- 新春のご挨拶..... ①
- 地域医療支援病院として
承認されました..... ③
- 第4回 京都中部総合医療センター
健康フォーラムを開催して..... ⑤
- 抗菌薬の適切な利用について..... ⑥
- 糖尿病への取り組み..... ⑦
- 公立南丹看護専門学校..... ⑧
- 赴任医師の紹介..... ⑧
- 近隣の連携医療機関の先生方..... ⑨
医療法人奈良会 なら皮フ科クリニック
中川医院
- 看護師・助産師募集中..... ⑩
- 旬の食材で健康なからだと栄養管理... ⑩
- 平成30年度 緩和ケア講演会のお知らせ
- 第31回 丹後半島駅伝大会に参加して
- 看護師・助産師募集
- 編集後記

新春のご挨拶

地域包括ケアの充実に向けて

院長 辰巳 哲也



新年明けましておめでとうございます。新春を迎え皆様におかれましては、お健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。今年もどうか宜しくお願い致します。

2018年も様々な出来事がありました。今年の漢字で「災」が選ばれたほど、西日本豪雨災害や度重なる台風と地震があり、多くの災害に見舞われた年でありました。明るい話題では平昌オリンピックでのスケート陣の活躍や、米大リーグで大谷選手が新人王に輝いたことが記憶に残っています。医学の分野では、がん免疫療法の発展に貢献された京都大学の本庶 佑 特別教授がノーベル医学・生理学賞を受賞され、多くの日本人研究者に勇気を与えていただきました。

いよいよ2019年が始まりました。今年は現在の皇太子殿下が5月に新たな天皇に即位され、約30年間続いた「平成」が終わり、新元号への変更（改元）が行われます。「昭和」生まれの私には、時代がまた一つ過ぎ去ったような感覚を覚えます。

京都中部総合医療センターも今年1月より「地域医療支援病院」としての責任を果たしていくこととなりました。主な役割は地域の中核病院として地域の診療所・クリニック等では対応の困難な専門的な治療や高度な検査、手術及び救急医療等を行い「地域完結型医療」の中心的役割を担うことです。また医療機器の共同利用の実施や医師会の先生方と協調して地域の医療従事者に対する研修の実施も積極的に行っていきたいと考えています。今後多くの医療関係者の方々と地域連携・協調を益々推し進め、効率的な医療を提供することで地域包括ケアの充実に向けて取り組みたいと思います。

2018年12月には4回目の京都中部総合医療センター健康フォーラムを開催しました。近畿大学名誉学長の塩崎 均先生を特別講演にお招きして「医者が癌になったら」と題して心に染み入るお話をいただきました。また例年通り、当院職員の健康講話や健康相談なども行いました。多数のご参加をいただき、市民・町民の皆様方と職員が身近に触れ合える実りある健康フォーラムが開催されたことに心より御礼申し上げます。

また、2019年6月9日には第54回京都病院学会が池坊短期大学で開催され、私が学会長を務めさせていただくこととなりました。学会では超高齢社会を迎えて、地域医療構想についての見識を深め、京都における地域包括ケア充実に向けた医療連携について議論を深めたいと考えます。基調講演に東京大学高齢社会総合研究機構特任教授の秋山弘子先生を、特別講演に産業医科大学医学部公衆衛生学教授の松田晋哉先生をお招きする予定です。是非とも多くの御発表や御参加をお待ちしています。

2019年は「亥年」（いどし・いのししどし）です。亥年には「無病息災」の意味もある年とされています。私は亥年生まれで、この2月で満60歳となる年男です。還暦を迎えるとはいえ超高齢社会の中、まだまだ目標に向かって猛進したいと願っています。年を重ねて自分でも少し頑固になったような気もしますが、塩崎先生がお話しされたように「高度なスキルと人間性」・「学び続ける人」を医療者の理想像として、職員とともに精進していきたいと思っています。また「忠恕」（自分の良心に忠実で他人のことを思いやる）の精神を常に持ち、医療に携わる人間としての徳を今後も磨いていきたいと願っています。今後とも皆様の御協力と御支援をどうか宜しくお願い致します。最後になりましたが、皆様にとってこの1年が幸多き1年でありますように、心からお祈り致しております。

総長 伏木 信次

新年明けましておめでとうございます。

過ぎ去った30年間の感慨と改元後の新しい時代への期待を覚えつつ、平成最後の初春を迎えました。

さて、近年、自動車の自動運転をはじめとするさまざまな場面でAI（人工知能）活用への期待が高まっていますが、こと医療の世界においてもAIの応用が現実化しつつあります。病理診断の領域では、深層学習を基盤とするAI診断に向けての研究開発が進みつつあり、対象領域はまだ限定的ながら、一定の診断能力を備えたものが出現しています。AIの診断能力が初学者レベルから中級者レベルにまで向上すれば、AIにスクリーニングを任せることが可能になり、病理医不足の中、病理診断サービスの向上、働き方改革にも合致した望ましい病院環境整備に貢献してくれるかもしれません。

ところで混沌化する世界情勢をみると、われわれ人類は果たしてどのような方向に向かっているのか、懸念を覚えずにはいられません。医療を取り巻く環境に目を転じてみるとことは同様で、創薬や医療機器のイノベーションがその成果を上げれば上げるほど、人口減少、とりわけ就労人口減少の進む日本における健康保険制度のサステナビリティに対する不安が高まるばかりです。

昨年11月京都中部総合医療センターは、京都府知事より「地域医療支援病院」の承認を受けました。今後は地域の拠点病院として住民の健康・医療ニーズに応えるべく、辰巳院長を中心に、質と量の両面を充実させていく必要があります。住民からより一層信頼される病院となるためには、医師、看護師、医療技術職員や事務職員等、当院の職員一人ひとりの日頃の精進が大切ですが、併せて、多様なニーズに応えることができるよう、明確な目標をもった有機的な多職種連携チームを作り機能させることが不可欠と考えます。

平成31年が、当院にとって新たな一步を踏み出す良き年となりますよう祈念しております。



看護部長 川勝 智子

新年あけましておめでとうございます。平成最後の新春を、皆さまはいかが過ごされましたでしょうか。

去年は、さまざまな地域において異常気象や自然災害が発生した年でした。被害にあわれた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

当院は昭和11年に「南丹病院」として開設され、平成29年5月に「京都中部総合医療センター」に名称を変更いたしました。ご利用いただいております地域の皆さまにおかれましては、新しい病院名に少しは慣れていただけましたでしょうか。また看護部では、平成30年4月にユニフォームを変更し、気持ちも新たに頑張っております。

当院は「地域医療支援病院」として京都府知事より承認を受けました。看護部におきましても、患者さんが納得して医療を受けていただけるように、看護ケアや疾病予防、生活指導を充実させ、さらには患者さんやご家族の心理面にも関わっていきたいと思います。本年度は「地域住民が満足する看護の提供」を第一に掲げてまいりました。地域の方々と、当院を利用される方々一人ひとりに寄り添い、安心・安全、納得のいく医療を受けていただけるよう、心温まる看護をこれからも提供していきたいと思います。

去年は「戌年」であり、鼻がきく犬のように、いろんなことを嗅ぎ分け成長してまいりました。今年は「亥年」です。「猪突猛進」ではなく、地域住民が満足する安心・安全な看護を提供することを目標に「勇往邁進」で進んでいきたいと思っています。

本年もよろしくお願い申し上げます。



地域医療支援病院として承認されました

当院は平成30年11月20日付で京都府知事から地域医療支援病院として承認を受け、平成30年12月26日の病院組合議会にて承認されました。今後も地域の皆さまの健康を守り安心して暮らせるよう貢献していきたいと考えております。

地域医療支援病院に承認されて

地域医療連携室長 かわの ひでひこ 河野 秀彦

京都府では13の病院（平成30年4月時点）が地域医療支援病院として承認されていますが、南丹医療圏にはないということもあり、当院ではこれまでに地域医療支援病院を目指した様々な取り組みを行ってきました。

地域の医療機関や開業医の先生方との情報連携の強化を行い、紹介・逆紹介を推進してきました。近隣の公立病院や医師会の先生方、南丹保健所、地域包括支援センターの方々に委員に就任していただき地域医療支援病院運営委員会を立ち上げ、当医療圏の医療機関や先生方には改めて登録医になっていただきました。また多くの領域に渉る研修会を企画・運営し、地域の医療従事者の交流や、多職種の医療連携を図っています。

このような取り組みを通じて地域の医療機関や開業医の先生方、関係各所、市民の皆さま方にご協力いただきましたことを深く感謝しております。

当院ではこれまでから、厚生労働省が推進している医療機関の役割分担を図るため、日常の診療はお近くの診療所等の医療機関（かかりつけ医）を受診していただくことをお願いしています。

当院を受診される際には紹介状をご持参いただければ、治療経過やお薬の情報などを確認し、適切な治療を行うことができ、また選定療養費もかかりません。患者さんには外来診療や入院診療にて、病状が安定すれば、当院から地域の「かかりつけ医」へ情報提供し、診療を継続していただきます。

今後も当院は地域全体の医療連携を強化し、地域の皆さまにより安心・安全な医療が提供できるよう努めていきたいと考えています。皆さまにはご理解とご協力をお願い申し上げます。



● 地域医療支援病院とは

「紹介患者さんに対する医療提供と、医療機器等の共同利用の実施により、かかりつけ医、かかりつけ歯科医等を支援する能力があり、地域医療の確保を図る病院としてふさわしい構造設備を持つ病院」とされており、地域医療全体の充実や地域完結型医療の実現を目的として都道府県知事より承認されます。

● 選定療養費の改定について

当院は、平成30年11月20日京都府知事から地域医療支援病院の承認を受けました。これに伴い、選定療養費について同年12月開会の当院組合議会の承認を得て、平成31年1月1日から次のとおり改定いたしました。

＜紹介状なしで初診診療を受けられた場合＞

医科 5,400円（税込） 歯科 3,240円（税込）

＜他院へ紹介させていただいたにも関わらず、他院を受診せずに再度当院を受診された場合＞

医科 2,700円（税込） 歯科 1,620円（税込）

ただし、地域医療支援病院に伴う選定療養費の制度により、対象外となる場合があります。

つきましては、ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

選定療養費に関するお問い合わせ

京都中部総合医療センター 医事課

TEL 0771-42-2510（代）

かかりつけ医を持ちましょう

患者さんには「かかりつけ医」をお持ちいただくことをお願いしています。「かかりつけ医」をお持ちでない患者さんにご利用いただくため、待合ホールに地域医療支援病院の登録医療機関の住所、診察日時、地図などを載せたリーフレットを設置していますのでご利用ください。



紹介状をお持ちください

当院は地域の中核病院として、専門的な治療や手術などが必要な患者さんの受入れを行い、地域の医療機関を支援する役割を担っています。地域の医療機関の先生方とスムーズに連携を行い、患者さんに適切な診療を受けていただくために、かかりつけの先生とご相談いただき、受診時には紹介状（診療情報提供書）をお持ちいただくようお願いします。

紹介状をお持ち
いただければ

1. 事前の診察予約が可能です。

2. 選定療養費がかかりません。

3. 治療経過や各種の検査結果、お薬の情報などから当院の医師が迅速に病状を把握できます。

4. 症状が落ち着いたらかかりつけ医へと紹介させていただき、スムーズな切れ目の無い診療へとつなげられます。

登録医制度について

地域医療支援病院では地域の医療機関と相互に機能分担し、患者さんに身近な地域で切れ目のない一連の医療が提供できるよう、連携を推進することが必要とされています。

その一環として地域医療支援病院には登録医制度があります。登録いただいた開業医の先生方は当院の開放型病床の利用、CTやMRI、内視鏡検査などの医療機器の利用や図書室、会議室などの施設を利用いただいたり、地域の医療強化を目的とした研修会に参加いただいています。

現在、南丹医療圏の8割以上の開業医の先生方（130名）に登録いただいています。登録医の先生方や医療機関を、患者さんや地域の皆さまにもお知らせできるよう、当院の正面玄関にボードを設置し登録医療機関名を「地域医療支援病院登録医療機関」と「医療圏内の連携病院」として掲示しています。



研修会のご案内

地域医療支援病院においては「地域の医療従事者への研修会を行い、地域医療の向上を支援する」という役割があります。従来より「緩和ケア」や「がん診療」などの分野における研修会をご案内させていただいておりましたが、昨年度からはより身近な「感染対策」や「認知症看護」をはじめ多くの研修会を、地域の医療・介護・福祉関係に従事されている方々へご案内しております。平成29年度は、全23回の研修会を開催し、延400名を超える方々にご参加いただきました。

研修内容等については、地域医療支援病院運営委員会をはじめ、地域で開催された会議や日々の連携の中で様々なご意見をいただいております。開催日時や、医師会や自治体、その他医療・介護・福祉等の団体が実施される研修会の情報を得て研修内容を検討し、参加したいと思っただけの研修会を実施していきたいと考えています。

研修会は当院のホームページでも随時ご案内しております。申し込み用紙や研修の詳細についても掲載しておりますのでご確認ください。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

地域医療支援病院に関するお問い合わせ

京都中部総合医療センター 地域医療連携室
TEL 0771-42-5061 (直通)

第4回

京都中部総合医療センター 健康フォーラムを開催して

実行委員会副委員長・循環器内科部長 の むら てつ や 野村 哲矢

平成30年12月8日に「ガレリアかめおか」にて第4回京都中部総合医療センター健康フォーラムを開催しました。この会の目的は、普段病院以外ではお会いする機会が少ない地域住民の皆様と病院職員が身近にお会いし、相互に交流することで病院や医療のことをよく知ってもらおうと同時に、病院ではなかなか聞けないことも気軽に相談してもらえる機会を設けることにあります。前年よりもより充実したフォーラムにできるよう、実行委員一同知恵をしばりながら半年間の準備期間を経て開催当日を迎えました。当日は肌寒い気温でしたが幸い天候には恵まれ、師走の慌ただしい週末にもかかわらず、約400名の地域住民の皆様にお集まりいただくことができました。

病院からの挨拶に引き続き、最初に「明日に活かせる健康術」と題した一般講演を行いました。これは3名の病院スタッフから、地域住民の皆さんの日頃の生活や健康に気軽に役立てていただけるような情報や豆知識を、分かりやすくお届けする企画です。口腔の機能を良好に保つことで健康寿命を延ばしていくためのポイントや、身近な人にもいつなりどきふりかかるかもしれない突然の心肺停止に直面したときに私たちができること、血管を若返らせて介護予防につなげるための運動の仕方などのテーマに対して、その道のエキスパートによる、一般の方々にも分かりやすいようにかみ砕いた内容のお話が展開されました。来場された一般市民の皆さんも熱心に耳を傾けられており、中には一生懸命にペンを走らせておられる姿も見受けられました。

今年の特別講演には近畿大学名誉学長の塩崎 均^{しおざき ひとし}先生をお迎えして、「医者が癌になったら」と題した講演を行っていただきました。塩崎先生は消化器外科医として臨床の最前線でご活躍されてきた臨床医であるとともに、ご自身が癌サバイバーでもいらっしゃいます。臨床医として癌を告知することの難しさをご自身の経験をまじえて紹介されるところから始まり、医療者の理想像として高度の医療スキルや人間性を身につけること、常に学び続けることを挙げて、医療の原点は人を思いやる「こころ・愛」であること、医師である前に一人の人間として、常に謙虚に患者と対等な立場で接することの重要性を力説されました。拝聴させていただいた我々医療者は、皆大いなる訓示をいただいた気分になった一方、熱心に聞き入っておられた多くの一般市民の皆さんは、塩崎先生の人柄がにじみ出るような患者さんに接する姿が、まさに患者さんの理想とする医師像であると感じて聞いておられたのではないかと思います次第です。

講演会場の隣のブース会場では、今回も院内各部門が工夫を凝らした合計18の展示や催し物を行いました。13時の開演にもかかわらず、定刻前からすでに順番待ちが発生するような検査体験型のブースもあり、いつもながら健康に関心のある地域住民の皆さんの熱気が伝わってくるようで、どのブースも終了間際まで大いに賑わっておりました。

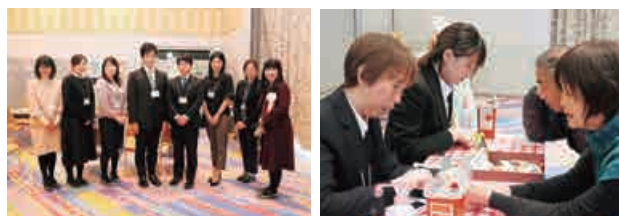
この健康フォーラムも早4回目の開催を迎えることになり、我々病院スタッフも余裕をもって準備に取り組むことができましたが、それでも当日は何かと至らぬ点多々あったかと思います。一方で前回同様多数の地域住民の皆さんにご来場いただき、にぎやかな雰囲気のもと、無事会を終了できましたことに厚く御礼申し上げます。健康意識の高い多くの地域住民の皆さんと貴重な時間を共有できましたことに感謝し、今後も地域の拠点病院として京都中部総合医療センターは地域住民の皆さんに寄り添っていける存在でありたいと願っております。今後とも一層のご厚誼のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



院長挨拶



一般講演の演者



ブース会場の光景

抗菌薬の適切な利用について

薬剤師 ^{いの}石野 ^{よういち}陽一

一般には、「抗生物質」や「抗生剤」といった呼び方が馴染み深いかと思いますが、厳密にはそれらを含んだ広い意味の「抗菌薬」という言葉が適切なので、ここでは抗菌薬という言葉を用いたいと思います。

当院では、以前よりICT（感染対策チーム）が、院内の衛生状態のチェックや抗菌薬の適正使用に向けて活動してきましたが、平成28年4月、「国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議」によって策定された「AMR（薬剤耐性）対策アクションプラン」を受け、平成30年4月から、これまで以上に抗菌薬の適正使用に重点を置いたAST（抗菌薬適正使用支援チーム）の活動が開始となりました。

国家がこのような薬剤適正使用に対するプランを策定したことには理由があります。長年にわたる抗菌薬の不適切な使用などによって、様々な抗菌薬が無効な「耐性菌」が次々と出現しており、世界保健機関（WHO）が「このまま策を講じなければ感染症に対する治療薬が無い時代が来る」と警鐘を鳴らし、近い将来、感染症による死亡率が再び第1位となると危惧されているからです。

そもそも菌というものは増殖する過程で遺伝子の変異が起こりやすく、ある抗菌薬に対する耐性を持った他の菌から耐性遺伝子をもらってくることも度々見られます。ただ、新たな耐性を獲得したとしても、耐性菌は感受性菌（抗菌薬が効く菌）の中で一定の比率で息を潜めているだけに過ぎませんが、いったん抗菌薬によってその比率が変わると、たちまち感染症の主役になってしまうこともあります。このため、抗菌薬の使用が本来必要でない人への不必要な使用や、必要量に満たない少量での使用や、漫然と長期使用を続けると、菌がその抗菌薬に対する耐性を学習し、増殖する機会を与えてしまうというわけです。逆に、抗菌薬が必要な人に対し、感染症の原因となっている菌に最適な薬・量・期間の使用を行えば、それぞれの菌の抗菌薬に対する感受性率（抗菌薬が有効な人の割合）は確実に改善します。とはいうものの、実際の感染症は複雑なものも多く、これはあくまで理想論に過ぎませんが、その理想に少しでも近づけるために、ASTの医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師で一丸となって抗菌薬の適正使用に努めていきたいと思います。

さて、抗菌薬の適正使用は我々医療人だけでなく、患者さんやその家族の方々のご理解・ご協力も必要となってきます。AMR対策アクションプランには、「2020年のある種の経口抗菌薬の使用量を2013年の水準から50%削減する」という成果指標が掲げられています。何も「抗菌薬を使うことが悪」というわけではなく、これにも理由があります。これまで日本では、風邪（細菌性咽頭炎など）に対し当たり前のように抗菌薬が使われてきました。この経口抗菌薬の中で一部の種類は、実は服用したうちのほとんどが体内に吸収されず、海外ではあまり使われていませんでした。服用したほんの数割が吸収されるのみで、体の中で低い濃度で善悪問わず様々な菌を倒すため、先程述べたような耐性菌の増加を促す原因となることや、お腹の中で菌の種類が入れ替わる菌交代による下痢の原因や、小児の低血糖といった思わぬ副作用の原因にもなることがあります。こういった理由から、今後はいわゆる“熱”や“風邪”で抗菌薬が使用されないケースも増えてくることかと思えます。患者さんからすれば、こんなにしんどいのになんで抗菌薬を出さないのと思われる方もおられるかと思いますが、これまでの「とりあえず抗菌薬」の時代が終わり、必要と思われる際はきちんと血液検査などを行った上で抗菌薬が使用される時代になりつつあることをご理解いただけるよう周知していきたいです。「感染症が治せる時代」が永く続くよう、我々医療者と患者さんの二人三脚で頑張っていきましょう！



引用元：AMR臨床リファレンスセンターウェブサイト
<http://amr.ncgm.go.jp/>

- 処方された抗菌薬は医師の指示通りに正しく服用しましょう。
- わからないことは医師または薬剤師にご相談ください。

糖尿病への取り組み

糖尿病委員会

厚生労働省が平成28年に実施した「国民健康・栄養調査」によりますと、成人の5人に1人が糖尿病または予備群という時代に入り、糖尿病患者は年々増加傾向にあります。また、血糖コントロールが悪いまま放っておくと腎臓病や網膜症、神経障害だけでなく、心臓や脳の血管にも障害がおきやすいとされています。糖尿病は自覚症状に乏しく、気づいた時には進行していることも少なくありません。

すなわち、糖尿病の進行や重症化を予防することは重要になります。

当院では糖尿病委員会が中心となり多職種で連携し、糖尿病重症化予防への取り組みや糖尿病に関する啓発活動を行っています。



糖尿病デーイベント

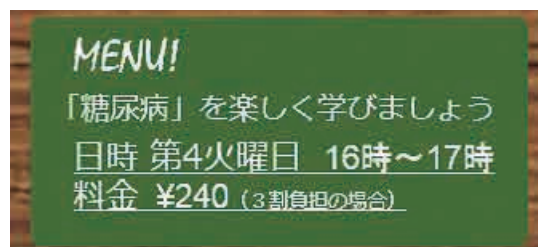
毎年11月の世界糖尿病デーに合わせて糖尿病啓発のイベントを開催しています。

平成30年11月13日に外来待合周辺にて、血糖測定や栄養指導、脳血管年齢測定、足のチェック、運動の指導などのブースを設けスタンプラリー式でのイベントをしました。参加者は100人近くとなり、楽しく学んでいただきました。今後もこのようなイベントを通じ、地域の皆さまの健康作りに貢献していける委員会として活動していけたらと思います。



糖尿病喫茶

当院の入院患者さん、外来患者さんを対象に、毎月第4火曜日の16時から、楽しく学べる栄養教室を開催しております。無糖のコーヒーや飴などをご用意して、お待ちしております。参加ご希望の方は主治医の先生または、栄養科までご連絡ください。



(健康保険の適用になります)

糖尿病教育入院パス

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士などの多くの職種が携わり、インスリン注射の正しい打ち方や食事量をご理解いただける内容となっております。また、患者さんご自身でも血糖測定や歩数計で1日の運動量を把握していただき、退院後の療養に役立ててもらっております。

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
講義 「糖尿病と言われたら」 栄養指導①	糖尿病チーム からの講義	糖尿病治療 の説明	運動療法	低血糖・ シックデイの 対応	外泊		栄養指導② 外泊振り返り	フットケア	退院に むけて

地域の医療機関との連携

地域のかかりつけ医と連携し、普段の治療や検査、お薬はかかりつけ医に受診していただき、大きな検査や入院が必要となった場合に当院で治療いただける仕組みもご用意しております。

学校祭に参加して

えんどう もも か
1年生 遠藤 桃佳

今年の学校祭はバレーボール、ドッジボール、借り物競争、バスケットボールの4種目についてチーム対抗で2年生の先輩の方と1年生でチームを組みました。

クラスのみんなどはもちろん、先輩方ともたくさん関わることができ、とてもいい経験になりました。私のチームは欠席者がおり人数が少なかったのですが、チーム全員で協力して全ての種目にフル出場しました。残念ながら最下位という結果になってしまいましたが、リフレッシュする機会となり、楽しい時間を過ごすことができました。先輩方と協力して一つのことに取り組み、いい交流の場となりました。



やまもと か ほ
2年生 山本 佳穂

今回の学校祭に参加してチームで支え合うことの意義や、その一瞬一瞬を楽しむことの大切さを学ぶことができました。

バレーボールが苦手な人がいた時にお互いをカバーし合ったり、失敗したときに「どんまい！」と声を掛け合ったりと互いに支え合い、チーム全員が気持ちを一つにすることができていました。このようにみんなが一つになり、気持ちを高めていくことがチームで支え合う意義であるように感じました。

また、失敗してもそれを笑いに変えたり、勝った時に笑顔で喜んでいたりする様子から、その一瞬一瞬を思いっきり楽しみ、気持ちをリフレッシュすることも必要で大切なことであると思いました。

赴任医師の紹介

こじま りょう た
整形外科 医員 小島 良太

1月から整形外科医として勤務させていただきます。まだまだ未熟のためご迷惑をおかけすることは多いとは思いますが、丁寧な診療を心がけながら少しずつ経験を積んでいく所存ですので何卒宜しくお願い申し上げます。



近隣の連携医療機関の先生方

『開院10年目のご挨拶』

医療法人奈良会 なら皮膚科クリニック

院長 奈良 武史

京都中部総合医療センターの先生方や職員の皆様には開院以来多大なご助力をいただいております。当院では抱えきれない難しい症例を受け入れていただき感謝しております。本当にありがとうございます。

さて当院は今年、開院10年となりました。ご縁あって大井町コーナンの近くに土地がみつかり、小さな医院を建てることができました。開院準備のあの忙しさを思い出すと今でも心拍数が上がる思いです。10年一昔といいますが人生100年時代の中では昨日のような時間感覚です。おかげさまで現在までに3万人以上の患者さんに来院していただいております。

皮膚科診療は全年代的、全方向的な側面をもってあります。全人的とは高所からの物言いがすぎるかもしれませんが個人的、社会的な問題を抱えている患者さんからの傾聴を重視し、良い意味でのパターン化で具体的な方向付けを重視すると同時に対話を大切に診療しています。また漢方診療を学ぶ機会があり10年来皮膚疾患から感冒や不定愁訴にいたるまで漢方薬を駆使して対応しております。アトピー性皮膚炎や皮膚腫瘍等の一般皮膚疾患のみならず今年からは要望が多かったシミ・たるみ取りの最新治療の機器も導入し女性のお悩みに対応できるようになっています。意外とシニア世代の男性からも美容皮膚科的な対応の希望もあり少々驚いていますが元気な高齢者が多い時代ですのでそれはそれで元気な証拠ということで良いのではないかと考えています。引き続き当院でできる限り時代に則した診療内容を提供し、皆様のお役に立てればと考えております。



『流れ 変化』

中川医院

中川 裕隆

台風21号が我が家の瓦を吹き飛ばして行ったかと思ったら、インフルエンザ流行の季節となり、ついに平成最後の正月を迎えてしまいました。故小淵恵三氏が「平成」と書かれた色紙を翳した時のテレビ画面は、ついこの前のように目の前にはっきり浮かぶだけに、時の流れの速さには驚かされます。一年間は毎年毎年、明らかに速さをまし、年齢は加速度をつけ重ねていきます。もっと時の流れをゆっくり感じる方法はないものかと考えてしまいます。

私の父が、川東地域の馬路町に中川医院を開業したのは昭和27年でした。それから66年が流れました。この間、時の流れに伴って地域の変化も素早いものがありました。二宮尊徳の石像のあった木造の馬路小学校は、鉄筋コンクリートの川東小学校に建て替わり、学童の増加に対応しました。そして現在は学童の減少に合わせて、1～9学年までの真新しい川東学園に変化しています。授業の一環としてテレビで東京オリンピックを見せてもらったあの川東小学校、アポロの月面着陸中継を見たあの高田中学校などと私が感慨に浸って入る間に、学校は少子化を上手く利用し小中一貫教育へと変貌変化させています。

また亀岡市も高齢化に伴い、老々介護が増えて、介護する側される側共に疾患を持つ方々も増えています。この状況で、地域医療支援病院である京都中部総合医療センターに患者さんを紹介させていただく場面も多くなりました。

中川医院が開業した昭和27年頃は南丹病院の内科常勤医は2人で、患者さんを紹介しにくい体制だったそうです。時の流れに伴って診療科の増加、常勤専門医の増員、地域医療連携室、地域包括ケアなど充実し、安心信頼できるセンターに見事に改善されています。

かつて昭和30年前後に大堰川の氾濫で南丹病院が浸水した歴史があったそうです。そんな災害に備えて地域災害拠点病院でもある京都中部総合医療センターは災害マニュアルを改変し事業継続計画へと変化されています。開業医に対しては講演や指導をされ、我々は新しい経験をさせてもらっています。

「新しいことを経験し学び変化し続ける時間日々は、長く感じ、同じことを毎日繰り返し変化しない時間日々は、速く感じる」と言う説があります。確かに変化を続けていた小学校6年間は長かったように思いますし、大人になって同じ事を毎日繰り返してしまった平成は速く流れたように感じます。この説を信じて、子供たちが新しいことを学び毎日変化して行くように、また京都中部総合医療センターがより良く毎年変化して行くように、私自身も日々変化して行くことを心掛けようと思います。そうすることで、誰かが翳す色紙の「新元号」は、時間がゆっくり流れるように感じたいものです。

看護師・助産師募集中 一職業体験や病院見学受付中一

副看護部長 ますたに てる よ
増谷 照代

当院看護部は、南丹医療圏の拠点病院として急性期から在宅医療に至る看護の提供を行っています。充実した地域医療が実践できるよう看護師・助産師の募集を行っています。京都市内や京都府北部で行われた京都府看護協会主催の就職フェアに参加して参りました。看護職をめざす高校生や看護専門学校・看護大学の学生さんや保護者の方々などが来られています。

院内では看護師一人ひとりが成長できるよう教育体制を整え、レベルアップができるよう専門能力向上のため多くの研修会を企画し、院内認定育成なども行っています。院外研修への支援体制も整えており、認定看護師など看護のスペシャリストを育成しています。また充実したワーク・ライフ・バランス制度の活用により働き続けられる職場作りをめざしています。専門職として学び・極めることのできる環境でありチームの一員として協調し、支えあうことを看護部の方針として大切にしています。当院の魅力を伝えることにより、共に働く仲間が増えることを願っております。

年間通じて職業体験のできるインターンシップや、夏期にはふれあい看護体験など積極的に受け入れていきます。現場の看護師と一緒に行動し、看護の仕事を体験いただくことにより、働く現場の雰囲気を感じていただければ幸いです。再就職をお考えの方々においても不安なく働くことができるよう体制を整えております。病院見学のみでも結構です。ぜひ当院までご連絡下さい。お待ちしております。ホームページのリニューアルも予定しています。今後も地域住民の皆様の期待に応えられるよう看護部一同精進して参りたいと思っております。



旬の食材で健康なからだと栄養管理

管理栄養士 にしかわ はるか
西川 悠

寒い冬の時期いかがお過ごしでしょうか？この時期になればご家庭の料理はおでんや鍋など身体が温まる料理を食べられる頻度が多いことと思います。

そこで今回は、おでんや鍋には欠かせない大根についてご紹介いたします。

大根の旬は冬といわれ、この時期が一番多く栄養を含みます。よく知られているジアスターゼという酵素は消化を助け胃の調子を整えてくれたり、イソチオシアネートといわれる辛み成分は、がん予防やお酒を飲み過ぎた場合に肝臓の働きを助けてくれるといわれています。また、大根にはビタミンCも多く含まれており、風邪予防の強い味方です。

ビタミンCは熱や空気に弱く、時間が経つほど失われていきます。その為、大根おろしなど生で食べる場合は、なるべく食べる直前におろしにすることをお勧めします。

次に大根は使う部分によって向いている料理があることをご存じでしょうか？

大根の葉は菜飯や和え物、汁物の具材に向いています。上の部分は甘みがあり、サラダや大根おろしなど生で食べられるのがおすすめです。真ん中の部分は辛みがあり、おでんや煮物などに向いており、辛い大根おろしがお好きな方は真ん中の部分をおろしにされるとよいでしょう。また、先の部分は漬け物など食感がある料理に向いています。

使う部分や、調理方法によって様々な顔を見せる大根。この寒い季節を乗り切る食材として活用されてはいかがでしょうか。



平成30年度 緩和ケア講演会のお知らせ

日 時:平成31年1月26日(土)14:00~16:00

場 所:ガレリアかめおか 2階 大広間

内 容:いのちの落語講演 一輝いて生きる三つの知恵一

講 師:樋口 強先生(いのちの落語家・作家)

〈お問い合わせ〉京都中部総合医療センター地域医療連携室

TEL 0771-42-2510(代) / FAX 0771-42-5071

無料

申込不要



第31回 丹後半島駅伝大会に参加して

公立南丹病院組合から今年も丹後半島駅伝に一般2チーム、女子1チームが参加しました。走ることが好きなメンバーで仕事が終わってから集まって練習し、大会に向けて力をあわせ頑張ってきました。当日も精一杯がんばり、一般Aチーム4位、Bチーム14位、女子チーム2位という結果で、とてもよい大会となりました。メンバーの親睦も深まり、これからも同じ職場で共に頑張っていきたいとおもいます。



看護師・助産師募集 (正職員・臨時職員)

正職員・臨時職員共に院内保育所を利用できます。
看護師寮(正職員のみ)利用も可能です。(月額10,480円)

〒629-0197

京都府南丹市八木町八木上野25番地

京都中部総合医療センター 総務課人事係

TEL 0771-42-2510(代) まで

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp/nurse/>



編集後記

あけましておめでとうございます。

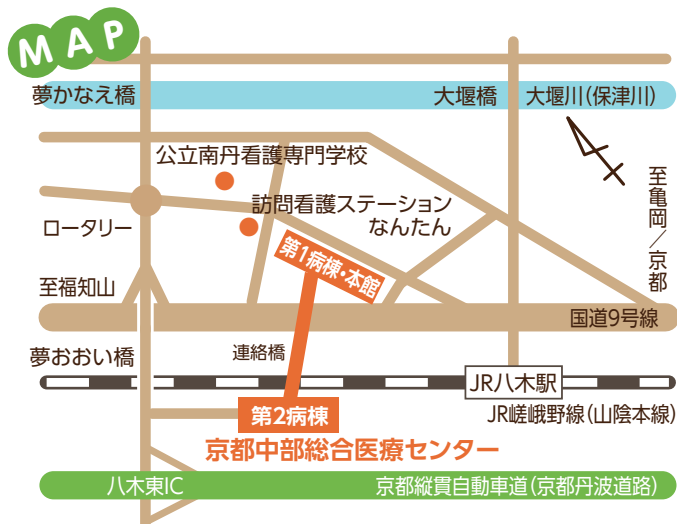
平成最後となる今年のお正月は「京の七福神巡り」というバスツアーに参加を申し込みました。何事も神頼みばかりではいけません、目に見えないパワーをもらったつもりで頑張れそうな気がします。

広報誌にも、このパワーを注ぎながら、皆さんに愛される1ページ1ページを作成していきたいと思います。

今年もよろしくお願いします。

広報委員 M.M.

広報誌Vol.14 (2012年7月号)「治療食のご紹介」、Vol.19 (2013年10月号)「秋の栄養学・食欲の秋」につきまして動物性の粘性物質に用いる「ムチン」を植物性の食材の成分として使用しておりました。訂正してお詫び申し上げます。当院ホームページに掲載されている広報誌バックナンバーの該当巻については修正しております。



発行：京都中部総合医療センター広報委員会